

松本大学

大学案内 | 2016 Campus Guide

MATSUMOTO UNIVERSITY



学校法人松商学園

松本大学

大学院〔修士課程〕 ●健康科学研究科

総合経営学部 ●総合経営学科 ●観光ホスピタリティ学科

人間健康学部 ●健康栄養学科 ●スポーツ健康学科



学校法人松商学園

松本大学松商短期大学部

●商学科 ●経営情報学科

信州・松本で育む、 真の人間力。

明るく機能的なキャンパスで専門的に学び

地域社会に出てさまざまな課題と向き合う。

地域の人とともに考え、解決する中で

コミュニケーション能力を培い

未来を切り拓く術を習得していく。

松本大学は、キャンパス内外に広がる多彩な学びを通して

真の人間力を育みます。



Contents

巻頭特集

「地域で学ぶ」

松本大学の教育ビジョン	03
地域連携活動	
街づくり	04
健康づくり	06
特産品づくり	08
地(知)の拠点	09
地域づくり考房『ゆめ』	10
地域健康支援ステーション	14

学長メッセージ	16
松本大学建学の精神・沿革	17
松本大学のポリシー	18

学部・学科

学部・学科INDEX	20
------------	----

総合経営学部

総合経営学部の学び	22
-----------	----

総合経営学科

カリキュラム・教員紹介	24
アウトキャンパス・スタディ	26
専門研究(ゼミナール)	27
在学生メッセージ	28
就職データ・卒業生メッセージ	29
活躍する卒業生	30

観光ホスピタリティ学科

カリキュラム・教員紹介	32
アウトキャンパス・スタディ	34
専門研究(ゼミナール)	35
在学生メッセージ	36
就職データ・卒業生メッセージ	37
活躍する卒業生	38

人間健康学部

人間健康学部の学び	40
-----------	----

健康栄養学科

カリキュラム・教員紹介	42
アウトキャンパス・スタディ	44
ゼミナール	45
在学生メッセージ	46
就職データ・卒業生メッセージ	47
活躍する卒業生	48

スポーツ健康学科

カリキュラム・教員紹介	50
アウトキャンパス・スタディ	52
ゼミナール	53
在学生メッセージ	54
就職データ・卒業生メッセージ	55
活躍する卒業生	56

松商短期大学部

松商短期大学部の学び	58
フィールド・ユニット制カリキュラム	60
フィールド紹介	62
アウトキャンパス・スタディ	67
ゼミナール	68
就職データ・卒業生メッセージ	69

大学院 健康科学研究科	
大学院の学び	70

キャリアサポート

キャリア支援	74
入学前教育・基礎教育の充実	76
教員免許・公務員対策・資格取得	78
国際交流	80

キャンパスライフ

信州・松本・通学	82
キャンパス	84
クラブ&サークル活動	86
年間行事	89

入試

インフォメーション

試験区分	90
WEB出願・学生募集要項(WEB)	91
2016年度入試日程・学費	92
学費免除・奨学金制度	94
アクセス・ロケーション	95
オープンキャンパス・入試相談会2015	96

巻頭 特集 「地域で学ぶ」

地域での実践的な学びが 社会で活躍するための力を養います

松本大学はキャンパス内の専門教育に加え、
地域の経済、文化、生活の中にテーマを見出し、
それらを生きた教材とした独自の学びを展開しています。
教室内で理論を学び、地域をフィールドに実践・研究し、
大学に戻って成果を検証・確認する。
大学と地域を結びつけた学びは、学生一人ひとりの学習意欲を高めるとともに、
課題解決能力やコミュニケーション能力などの社会人基礎力を養成。
地元はもちろんのこと、国内や海外で、そしてどんな業界・職業でも
活躍することのできる人材を育てます。

● 松本市からのメッセージ 次代を担う若者たちへ



松本市長
菅谷 昭氏

松本市では、平成32年度を目標年度とする総合計画において「健康寿命延伸都市・松本」を将来の都市像として掲げ、この実現のため、6つのまちづくりの基本目標のもと、経済、産業、観光、教育、環境、都市基盤など様々な分野が連携し、「心と体」の健康づくりと「暮らし」の環境づくりを一体的に進めております。平成25年3月には「健康寿命延伸都市」を宣言し、平成26年からは「美しく生きる。」をキャッチコピーに「健康寿命延伸都市・松本」の創造のさらなる推進に取り組んでいます。

基本目標の1つに「魅力と活力にあふれ、にぎわいを生むまち」がありますが、その実現のためには、松本地域の大学の人材、知的財産などの特色を活かしながら、産学、行政が一体となってまちづくりを進めていくことが重要であることは言うまでもありません。

松本大学は、開学以来、建学の理念として「地域を活かす、人づくり大学」を掲げられ、コミュニケーション能力を高めるための実践的なカリキュラムを導入し、幸せな地域

社会づくりへ貢献することを目指す様々な取組みによる数多くの成果は、今や全国から注目されています。

また、社会に貢献するという志が醸成され、優れた人材がより多く地域、社会へと還元されていることは、松本大学がこの地域の最高学府として重要な存在であるとともに、「健康寿命延伸都市・松本」の創造の一翼を担うものであると感じています。

「若い」は、「若しくは」につながる可能性の言葉であり、若者たちのフットワークと「優れた才能」、「大いなる希望」、そして「ゆるぎない勇氣」に期待するところです。そして、大学キャンパスを拠点に人と自然が豊かな長野県全体を研究のフィールドとして、一人ひとりが、併せ持つあらゆる可能性を大いに発揮されることを確信しています。

新たな知恵、知識、視点で、この超少子高齢型人口減少社会が幸せで、活力にあふれる社会になるための方向、答えを導き出し、社会の各分野で活躍する次代を担うエキスパートへと成長されることを心から願っています。

松本大学の教育ビジョン

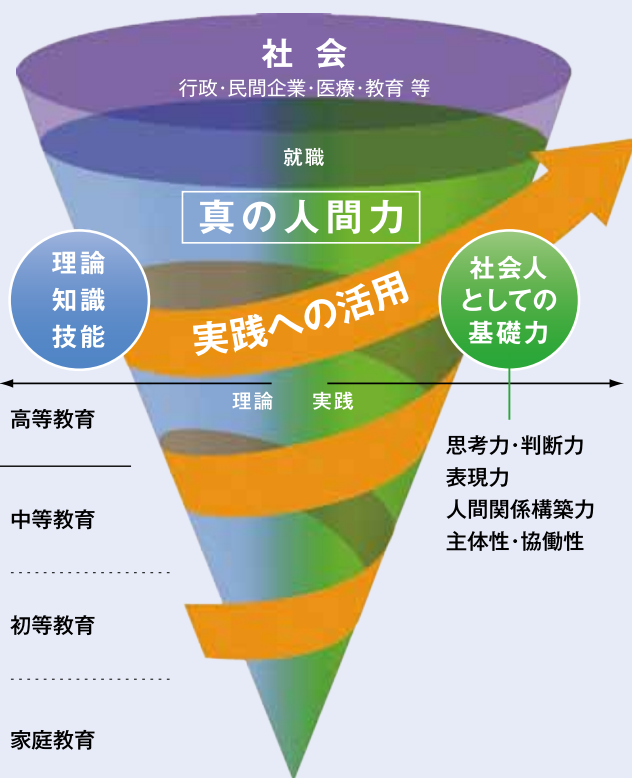
＜人間力を育成する学び＞

専門教育

大学・短期大学などの高等教育機関での学び。一般教養や語学、特定分野の専門知識などを身につけます。

基礎教育

家庭でのしつけ、義務教育である小中学校、そして高校での学びを通して、基礎的な知識・素養を修得します。



文部科学省
地(知)の拠点

松本大学は文部科学省の「大学COC事業」に選定され
地域活性化の中核的存在として期待されています

地域連携教育を進めるだけでなく、教職員の専門分野での研究力を活かした地域貢献・連携に対する支援(地域総合研究センター)を行い、地域活性化の中核的存在(COC=Center Of Community)としての役割を担っています。 ➤ P.9

独自の教育プログラム

＜地域と関わる学び＞

実習・実践

基礎教育・専門教育で修得した知識を実際の社会で実習・実践することにより、社会で活躍するために必要な社会人基礎力・人間力を養成します。

アウトキャンパス・スタディ

キャンパスを飛び出して地域社会の現場で学び、考え、議論し、行動する。松本大学独自の授業形式です。

➤ P.27,35,45,53,67

専門研究・ゼミナール

学生が主体的に取り組むゼミナールでも、地域社会の中からさまざまなテーマを設定し、現場で実践しながら研究に取り組んでいます。

➤ P.28,36,46,54,68

地域連携活動

自治体や民間企業・教育機関などと積極的に連携し、大学も地域も元気になる活動を行っています。

➤ P.4

地域づくり考房「ゆめ」

学生の自主的な地域活動を支援。学生の興味・関心を具体化することが地域の発展や貢献につながっています。

➤ P.10

地域健康支援ステーション

地域の方々の健康づくりを支援する拠点。「栄養」と「運動」の両面から地域とのコラボレーションを展開しています。

➤ P.14

正課内

正課外

地域連携活動 街づくり

学生の発想力を活かし 魅力ある地域づくり



観光、マーケティング、福祉など 大学の研究分野を地域振興に活用

今、地域社会では賑わいある商店街の再構築、地域資源を活かした魅力ある観光地づくりなど、さまざまな取り組みが進んでいます。さらには、少子高齢型人口減少社会の進展に伴って求められる、高齢者や弱者に優しい地域コミュニティの創出なども、重要なテーマとなっています。

こうした地域社会の課題に対して、松本大学では「街づくり」に関する研究・実践機能を活かして地域と連携し、多彩な活動を展開しています。観光マネジメント&マーケティング、地域産業・企業経営、地域経営・福祉政策などの専門研究成果と、学生たちの柔軟で自由な感性やアイデアを活かし、これからの街づくりに向けて取り組んでいます。

シャッター通りだった「^{あげつち}上土商店街」に 活気と賑わいがよみがえりました

観光ホスピタリティ学科の白戸ゼミでは、2005年から上土商店街と連携して商店街の活性化に取り組んできました。かつての上土は文化発信エリアとして賑わっていましたが、その後多くの店が閉店し、シャッター通りとなっていました。そこで学生たちが街に人を呼び戻そうと提案したのが「人と人が出会う交流の場」と「新しい文化を創出する創造の場」づくり。スイーツを活かしたウォークラリーやコミュニティカフェの開催などの取り組みを通じて、新規店舗もオープンするなど活気を取り戻しつつあります。さらに、2015年5月には「カフェあげつち」を開店して地域の方が交流できる居場所づくりを進めています。今後は買い物支援事業やコミュニティビジネスの展開などを通して、上土商店街の発展をさらに支援していきます。



上土商店街の活性化施策

「人と人が出会う交流の場」づくり

上土カフェの展開

- コミュニティ・カフェ「上土日和」をオープン
- 子育て家族向けの「キッズコーナー・えびすっ子広場・駄菓子屋ロマン館」を開催
- 高齢者向けの「マニキュア体験・バレンタインチョコづくり」を開催

「新しい文化を創出する創造の場」づくり

大正ロマンを発信

- 老舗洋菓子店の味・文化を継承する「スイーツラリー」実施
- 新たに「上土レトロール」「大正ロマンカレー」商品開発
- 「松本電気館」を大正ロマンギャラリーとして整備

今後の展開

「多様な暮らしのニーズを満たす買い物の場」づくり

買い物支援事業の展開

「新しい仕事を始める起業の場」づくり

下町会館「カフェあげつち」の経営



これからの 地域づくりに必要なのは コミュニティビジネス の発想

観光ホスピタリティ学科
白戸 洋 教授

上土は大正時代に新しい文化発信地として誕生した多くの住民の方が暮らす街です。そこで大正ロマンを追求するとともに、住む方が生き生きと暮らせる街づくりを展開してきました。地域振興は他エリアからの集客や売上アップを考えがちですが、上土が目指したのはコミュニティの活性化。そしてその起点が、本学が地域の方と組んだコミュニティ・カフェ「上土日和」が発端となり、2015年5月から常設となった、「カフェあげつち」です。商店街の方や高齢者、親子連れがここに集い、情報が発信され、新しい価値が生まれていく、そんな取り組みに発展しました。今後はこのカフェをベースに、住民の方が地域の課題解決への取り組みをビジネスとして成立できるコミュニティビジネスを展開していければと思っています。

参加学生

高齢者福祉の視点から新しい取り組みにチャレンジ



平波 綾乃さん

観光ホスピタリティ学科 4年
長野県穂高商業高等学校出身

イベントに参加する度に先輩方が築いてこられた街の方との絆を実感します。学生が街づくりに参加するのではなく、街の方と一緒に取り組んでいる感覚です。ただ先輩方と同じことを繰り返すだけでは、実りある学びとは言えません。先生からも「引き継ぐのは人間関係だけ。新しいことをやりなさい」と指示されています。私は福祉関係を中心に学んでいるので、買物弱者支援や高齢者の集いなどの取り組みに力を入れています。また昨年近くに開所した介護老人福祉施設とのコラボレーションにも取り組んでいます。私たちが快く受け入れてくださる街の方に喜んでいただくためにも、新しい試みを成功させたいと思います。

活躍する卒業生

新たな出会いや物語が始まる場所にしたい



濱 由佳子さん

観光ホスピタリティ学科 2015年3月卒業
長野県・松商学園高等学校出身
「カフェあげつち」スタッフ（松本市地域づくりインターン）

学生時代のゼミ活動ではたくさん失敗しましたが、地域の方に支えられ、育てていただきました。人とのつき合いが苦手だった私自身が、この取り組みで自分の居場所を見つけたのです。そして、コミュニティの中の居場所の大事さを痛感していたときに、カフェの仕事のお話をいただき、常駐スタッフになりました。今はこのカフェが、人と人が結びつき、新たな出会いや物語が始まる場になればと考えています。

その他の「街づくり」活動例

さまざまな街で多彩なテーマの 地域づくりに貢献しています



住民と学生が県外の街並みを視察



松本市奈川での交流

買物弱者支援のためリヤカーで野菜を販売する「もったいないプロジェクト」、JA 新村青年部と連携して観光開発・地域開発を行う「ひまわりプロジェクト」、池田町を活性化するための「てるてる坊主アート展」の企画運営などを展開。さらに岐阜県高山市との観光ガイドブック作成、福祉と観光の融合をテーマにした釜山のガイドブックづくり、「健康寿命延伸都市松本奈川」の実証実験としての高齢者との交流など、活動は多彩に広がっています。

地域連携活動 健康づくり

運動指導を通して 学生が学びの実践



「健康運動指導士」養成大学の 専門性を活かした独自の取り組み

本格的な超高齢化社会を迎えたいま、高齢者に関する医療費・社会保障費の拡大は財政をゆるがす深刻な課題となっています。そこで、病気にならないための予防医学的な取り組み、つまり「元気な高齢者を増やす」ことが地域に求められています。

地域社会のこうした切迫したニーズに応え、松本大学では運動指導を通して地域住民の健康づくりを支援しています。医学や運動生理学の専門知識を持ち、高血圧や糖尿病患者などにも安全で効果的に運動指導できる「健康運動指導士」(厚生労働大臣認定)養成機関としての専門性を活かし、ゼミナール活動などを通して学生たちが地域と連携しながら、さまざまな形の健康づくりプロジェクトを展開しています。

運動・健康づくりメニューを通して リゾートホテルに新しい付加価値を提供

信州を代表するリゾート地・白樺湖畔にある池の平ホテル&リゾートと松本大学は2011年から連携協定を結び、スポーツ健康学科の根本ゼミが全面協力してホテルの利用客に健康指導サービスを提供する「いきいき診断ルーム」を開設しました。「健康いきいき診断プログラム」「ウォーキング講座」などの講座を通して、生活習慣病予防、体力増加、美容・ダイエットなどの指導を行います。松本大学卒業の健康運動指導士3名が運動処方・指導に携わるとともに、各講座では根本教授が講師を担当。学生たちもサポート役として参加し、ホテル利用者に健康指導を実践しています。また、池の平ホテル&リゾートは諏訪赤十字病院との連携も始まり、そこでの協力など、取り組みは新たな進展を見せています。





マネジメント能力を備えた 健康運動指導士を 養成していきたい

スポーツ健康学科

根本 賢一 学科長・教授

健康講座は、学生たちにとってまさに実践の場です。実際に利用者に指導する過程で「専門知識が十分に習得できていない」ことや「授業の内容はこれを伝えるためだった」ことなどを理解・確認できるので、学びへの意欲がより高まります。健康講座への参加は強制ではありませんが、ゼミ生全員が積極的に関わってくれています。

また、私は実践を通して社会人としての力も養成したいと考えています。4年次になると全員に各講座のリーダーの役割を課し、健康講座の企画立案、3年生の割振り、先方との交渉まですべてを任せます。こうした経験を通して、学生はコミュニケーション能力や運営力を身につけていきます。今後、健康運動指導士の活躍分野は多彩に広がっていくことが予想されます。だからこそ指導力だけではなく、企画力・マネジメント能力を備えた人材を育てたいと思っています。

参加学生

「皆さんの役に立ちたい」という意識が芽生えました



北澤 拓也さん

スポーツ健康学科 2014年3月卒業
長野県大町高等学校出身
長野県警察勤務

池の平ホテル&リゾートの講座には、3年次の6月から毎月1回ほど参加し、ストレッチ、筋力強化運動、ウォーキング方法などを指導しました。自分の両親に近い年齢の方も多く、目上の方とのコミュニケーションを学ぶことができました。また、参加者がかけてくださった「ありがとう。また来月も来るね」「いい指導者になって」などの言葉が励みになり、皆さんに役立つ情報を提供したいというプロ意識も芽生えて、勉強への姿勢も変わりました。大切だと感じたのは、参加者一人ひとりの目線に立ち、相手の立場に立って考えること。その姿勢を大切に、社会に出てからも学び続けていきたいと思っています。

活躍する卒業生

健康づくりのパイオニアとして頑張っています



(写真右から)

櫻井 春奈さん

小澤 ひかるさん

上條 聖一さん

池の平ホテル&リゾートの健康指導を支えているのが、松本大学スポーツ健康学科で学んだ3人の卒業生です。「健康いきいき診断プログラム」の専任担当として、呼気ガス分析装置を用いた持久性体力テストなどから個々のお客様のデータを計測・解析、その方に合った運動メニューを策定し個別に運動指導を行っています。ホテルにおける健康づくりという新たな世界を切り開くパイオニアとしての役割を担っています。

地域行政との連携

学生自らが健康講座を企画して
市町村での運動指導を実施。



松本市、諏訪市、塩尻市、安曇野市、南箕輪村、筑北村などからの依頼に応じて、長野県内の市町村で健康講座を企画し、主に中高齢者を対象に運動指導を行っています。担当教授の指導の下、学生が各地に足を運び参加者とコミュニケーションを図りながら講座を運営しています。

地域連携活動 特産品づくり

地元農産物に付加価値 ユニークな商品に



葵宝寿し



わさびコロック



あずみの華御膳



アルクマそばバウム

素材・商品開発を通して 6次産業を強力に推進

農業や林業などの振興を目的に、全国で6次産業への取り組みが進んでいます。6次産業とは生産（1次）と加工（2次）、流通販売（3次）を結びつけて付加価値の高い商品やサービスの提供を目指すもの。松本大学は素材・商品開発機能を活かして6次産業の事業化を強力に推進しています。

「そば」「わさび」を活用し 特産品をプロデュース

健康栄養学科の矢内ゼミでは安曇野市商工会などと連携して6次産業推進事業を展開し、「そば」「わさび」を活用した特産品づくりをプロデュースしています。「そば」に関しては製粉カスを焙煎し風味をアップした「焙煎そば粉EX」を開発してインスタント麺「信州アルクマそば」を販売し、昨年度までに27万食を超えるヒット商品となりました。今年はそば農園、そば粉の新工場を開設してさらなる売上向上を目指します。また「わさび」はわさび風味を食材に付与できる「ワサビ葉ペースト」を開発して商品化への取り組みを進めています。



事業を立ち上げ
継続した取り組みに
することで
地域を元気に

健康栄養学科
矢内 和博 専任講師

6次産業を成功に導くには、異業種間の連携が不可欠です。生産者、加工メーカー、そして販売チャネルを持った流通会社。矢内ゼミは素材開発・商品開発を基軸に、こうした方々を結びつけながら事業を推進する役割を担っています。また、商品を世の中に送り出すために必要な原料の栽培から収穫、加工、商品化、生産、販売などのすべての過程に関わり、学生たちは現場で考え、行動し、汗を流します。ここが地域に密着した松本大学の特徴であり、他大学にはない強みだと思います。単にアイデアを出すだけではなく、それを事業化して利益を上げ、雇用を創出すること。6次産業のこうした継続的な取り組みこそが、地域の活性化につながると考えています。

その他の「特産品づくり」

行政・民間とのコラボからさまざまな商品を開発

矢内ゼミの6次産業推進事業以外でも松本大学では地域づくり、マーケティング分野の研究を活かして、多彩な特産品づくりを行っています。総合経営学部観光ホスピタリティ学科が「まつもと城町市民コンシェルジュ」と共同で開発した「日本酒チョコレート」、松本駅で販売している駅弁「城下町おごっつお」、松商短期大学部がJAあづみから依頼されたリキュールに合うスイーツなど、いずれも地域の行政・民間企業とのコラボレーションから生まれた商品です。

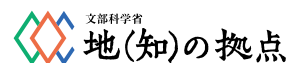


日本酒チョコレート



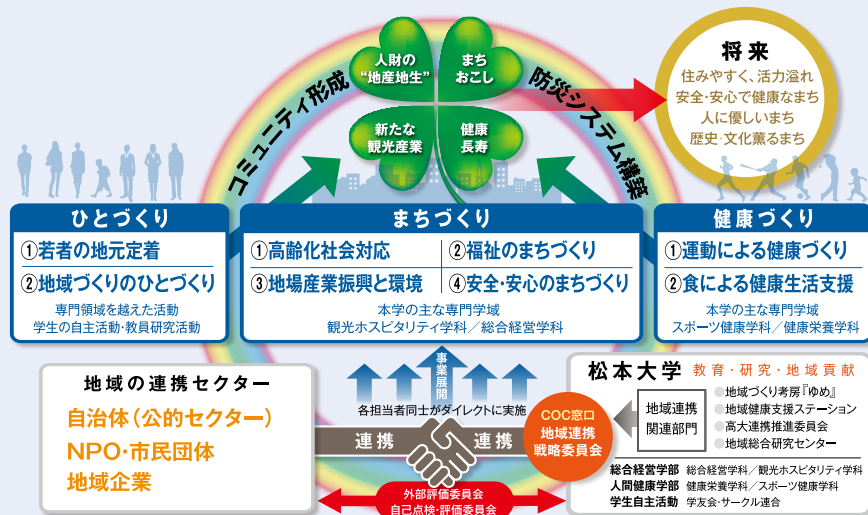
城下町おごっつお

地域活性化の中核的存在として 期待される松本大学



— 文部科学省の「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)に選定 —

本学は文部科学省の平成25年度「地(知)の拠点整備事業」に選定され、地域活性化の中核的存在として多彩な活動を行っています。
この活動には学生が積極的に参加・参画し、それはそのまま、地域に貢献できる若者を育成する、本学ならではの教育手法になっています。



大学COC事業とは？

多様で複雑な課題を抱える現代の地域社会において、その課題解決に向けて自治体等と連携しながら地域の拠点となって貢献する大学、地域再生の核になり得る大学を、文部科学省が5年間にわたり強力にバックアップするための事業です。

“ひとづくり”の取り組み

“ひとづくり”の取り組みは、若者と地域住民の両者を対象に進めています。若者の“ひとづくり”は、「地域の若者を地域で育てて地域に返す」という理念に沿って、高大連携事業を積極的に展開しています。また地域住民については、これまでの地域づくりを実践する人材養成に加え、経済の活性化を念頭に置き、地域ビジネスとその担い手を養成する講座等を行っています。



“まちづくり”の取り組み

“まちづくり”の取り組みは、「高齢者」「福祉」「環境」「安全・安心」をキーワードに展開しています。たとえば高齢者の居場所と買い物問題については、地域住民の参加も可能なPBL型の授業を立ち上げ、背景・問題把握・解決方策・実践・総括という一連のサイクルに沿って、あらゆる角度から学び、同時に“まちづくり”を実践しています。また、「安全・安心」なまちづくりのために、防災・災害対策支援にも取り組んでいます。



“健康づくり”の取り組み

運動と食・栄養の両面から地域の健康づくりを進めています。たとえば、長野県の長寿の原因を解明し、健康長寿を今後も維持・増進するために必要な学術的情報を交換する研究会の開催や、イベント会場等で地域の方への食育活動を進めています。また、運動の面から、中高齢者を対象とした健康づくり教室の開催、さらに地域で幅広くスポーツに親しみ、ひいては健康の維持・増進をはかるための総合型地域スポーツクラブを普及させる活動等も行っています。



地域連携活動 自治体や企業と連携協定を結び魅力ある地域づくりに貢献しています。



地域連携活動での連携協定先一覧 (順不同)

松本市／安曇野市／塩尻市／高山市／南箕輪村／生坂村／筑北村／飯田市／長野県体育センター／安曇野市商工会／全国「道の駅」連絡会／社会福祉法人松本市社会福祉協議会／社会福祉法人山形村社会福祉協議会／財団法人長野県中小企業振興公舎／長野県総合型クラブ連絡協議会／社会医療法人抱生会丸の内病院／財団法人長野県健康づくり事業団／あづみ農業協同組合／東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会／NPO法人熟年体育大学リサーチセンター／株式会社松本山雅／株式会社長野県民球団／グレイシア株式会社／株式会社オノタ／新村駅舎を残す会／美勢商事株式会社／株式会社ライフサービスオグチ／株式会社デリカ／松本倉庫株式会社／松商学園高等学校／長野県飯田OIDE長姫高等学校／長野県穂高商業高等学校／長野県岡谷東高等学校／長野県丸子修学館高等学校／エクセラン高等学校 ほか

地域づくり考房『ゆめ』

『ゆめ』は学生と地域をつなぐ場 仲間とともに地域の課題に取り組みます

「地域人」としての自覚と 人間性を養う場

2005年に開設された地域づくり考房『ゆめ』は、地域のさまざまな課題解決に向けた学生の主体的な活動を支援し、学生・大学関係者・地域の人々との協働によるパートナーシップ事業を創出する「ネットワーク型支援センター」です。

具体的には右記の4つの活動を行っており、学生は自分の興味・関心に合わせて、この中のプロジェクトに参加したり、新たなプロジェクトを立ち上げて世代を超えてたくさんの人と出会い、楽しくふれあいながら、ともに力を合わせて地域の活性化に向けた取り組みを実践します。学生は、こうした地域づくり活動を通して社会に関心を持ち、課題に気づき、より具体的な行動について考えます。そして、地域の人々と協働・共創しながら積極的に活動することで、課題解決能力を身につけ、「地域人」としての自覚と豊かな人間性を身につけていきます。

地域づくり考房『ゆめ』の4つの活動

学生の関心、問題意識から生まれた企画実践

地域との協働でプロジェクトを企画実践

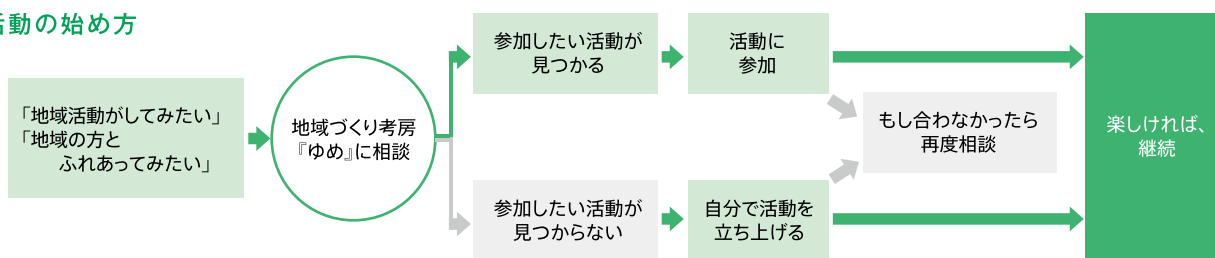
地域で企画される活動への参加・支援

地域づくり考房『ゆめ』の自主事業



『ゆめ』のキャラクター「こう坊」

活動の始め方



考房『ゆめ』を支える学生スタッフ



学生目線でプロジェクトの活動をバックアップ

学生の地域活動を学生の視点でバックアップするのが考房『ゆめ』学生スタッフの役割です。4月には新生に『ゆめ』の活動を紹介する“ゆめカフェ”をプロジェクトリーダーとともに開いたり、年2回全『ゆめ』プロジェクトメンバーが集まる研修会や交流会を企画・運営。さらに昼休みに常駐して学生の相談に応じたり、新聞から地域活動掲載記事や参考記事を収集し掲示・整理して情報提供を行っています。

子どもが社会の仕組みを学ぶ 「あるぷすタウン」開催



160人の子どもが社会を模擬体験

松本大学のキャンパスで、子どもが楽しみながら街を知る、暮らしを知る、仕事を知るための「あるぷすタウン」を2日間開催しました。これは子どもたちに社会の仕組みや地域に関心をもってもらいながら、自分で自発的に考える力やコミュニケーション力等を養うことを目的としたイベント。会場には市役所、飲食店、清掃、鉄道、警察、放送など約20の職場を設け、その職業に携わる社会人の専門家が指導するなど本格的な内容で、子どもたちはハローワークで仕事を見つけながら職場を体験しました。また、働くところあるぷすタウンの通貨「ユーメ」で給与がもらえ、税金を払ったり、買い物をしたり、さらには起業して会社を設立したり市長に立候補することもできるという、まさに子どもが運営する街です。

2日間にわたって小学4年生から中学生まで、子どもたち約160人が参加しました。子どもたちは全員が熱心に働き、税金を納め、遊び、選挙で投票し、街づくりに参画しました。大人の社会を疑似体験するという貴重な機会を通して、楽しみながら社会の仕組みを学習しました。



自主的な姿勢がビッグイベントを成功に

「あるぷすタウン」開催のきっかけは、地域づくり考房『ゆめ』が催した若者と地域の方が語り合う「ワールド・カフェ」。ここで、子どもたちの街づくりを開催している「とさっ子タウン」(高知県)のを知り、「ぜひ松本大学でも開催したい」と声があがりました。そこで本学学生と社会人ら約20人で実行委員会を結成。「とさっ子タウン」を視察し、その後は企画立案から参加企業との交渉、直前の作り込みまで、何度も打ち合わせをしながら準備を進めてきました。

開催当日の2日間で参加したボランティアスタッフは、本学学生延べ110人、高校生延べ98人、社会人延べ116人という大所帯。全員が目的意識を持って自主的に行動する姿勢と同じ目標に向かうことで生まれるチームワークが、「あるぷすタウン」というビッグイベントを成功に導きました。



地域づくり考房『ゆめ』

学生の関心、問題意識から生まれた企画実践

非行や社会適応に悩む少年たちの よき兄・姉のような存在に

松本 BBS 会

松本BBS会は、非行に走ったり悩みを抱えている少年少女たちのよき兄・姉のような存在として「相談相手」「遊び相手」になる活動をしているボランティア団体です。考房『ゆめ』では20人ほどの学生がこの松本BBS会の活動に参加し、少年少女たちの立ち直り支援、学習支援に取り組んでいます。

具体的な活動としては、安曇野市にある少年院・有明高原寮を月1回訪問して少年たちと座談会で話をしたり、スポーツ交流会やクリスマス会を行って交流を深めています。さらに保護観察中の少年たちとの料理づくりやスポーツ交流会、マンツーマンで少年の相談に乗り一緒に遊びに行く「ともだち活動」なども展開しています。

学生たちは、最初はそんな少年たちと上手く交流できるか不安を感じますが、実際に接してみるとみんな明るく、楽しくコミュニケーションをとることができます。少年少女の更生はもちろん、偏見のない社会づくりへ向けて、継続的な取り組みを続けています。



その他の活動

- 松本大学こどもあそび隊
親同士や親子のコミュニケーションづくりの場「こども広場」の企画・運営。
- Sign
聴覚障がい者と交流しながら手話などを学び、聴覚障がいについての理解を広める。
- ◎いただきます!!
「食」を通して地域のつながりを広げ、健康な食生活を提供。
- ええじゃん栄村
地元の食材を活かした商品開発・販売などを通して、長野県北部地震で被災した栄村の復興を支援。
- 他
- 松本大学キッズスポーツスクール
子ども達に体を動かす楽しさを伝え、スポーツ好きになるためのサポートを実施。

地域で企画される活動への参加・支援

アイデアと行動力を活かし 花火大会を企画・運営

すすき川花火大会

松本市薄川で行われる「すすき川花火大会」の実行委員会事務局である富士電機から「学生の視点と発想で新風を吹き込みたい」と協力依頼がありました。そこで、『ゆめ』を通して16人の学生が参加し、社員の方とチームを組んで花火大会を盛り上げました。

ポスター・チラシ・うちわなどの企画・デザインから花火大会の企画、オープニングの演出、写真・絵画コンテスト、さらには松本山雅FCや松本商店街組合との協働によるプレゼント抽選会、FMまつもとでの参加呼びかけなど、学生たちは多くのアイデアを出し、実践。約2カ月という短期間でしたがチームワークも良く、花火大会をより楽しいイベントにすることができました。「自分の意見を伝える大切さを実感した」「企業の方は幅広い視点から物事を見ていて日々勉強になった」「社会人の方の企画・運営力やチームワークを間近で見られて参考になった」など、参加学生は花火大会をやり遂げた達成感を味わい、多くのことを学びました。



その他の活動

- おかち町市場
- 留学生交流ボランティア
- 福祉施設でのアカベラコンサート
- わおん♪自然探検隊
- 上土よいまちクラブ
- 新村館報編集委員
- くれき野やさいクラブ
- 波田サッカークラブ
- 無料こどもじゅく
- 松本神社神輿渡御
- フリマネット信州
- 塩尻プレーパーク
- ものづくり子ども博物館
- 山望苑お散歩
- ICFAピースクラブ
- 新村児童センター
- アースデイまつもと
- 新村地区初級パソコン教室
- えんばくサイエンス教室 他

地域との協働でプロジェクトを企画実践

バリアフリー調査と 若者の目線で誘客を提案

諏訪の観光と美術館・博物館

諏訪湖周辺の美術館・博物館で組織する諏訪湖アートリング協議会から「施設のバリアフリー調査と若者が訪れたくなる観光プランを考えてほしい」と依頼がありました。そこで聴覚障がい者が暮らしやすい環境づくりに取り組んでいる考房『ゆめ』プロジェクト「Sign」が協働事業を展開。諏訪湖周辺3市町の行政・観光関係者、美術館・博物館関係者、「Sign」の学生など総勢80人が集い、「一緒に考えて! 諏訪の観光と美術館・博物館」と題したワークショップを開催しました。学生たちは美術館・博物館のバリアフリー調査の結果発表と若者が訪れたくなるようなプランを提案。「バリアフリーの充実に加え、人のサービス対応が重要」「若者誘致には流行を取り入れた企画や展示、雰囲気統一、楽しめるコーナーづくりが大切」など、若者の利用者目線に立った提言を行いました。



これまでに取り組んできた産学官民協働事業

- 「じもとーく」
学生が行う地域活動から地域課題を掘り下げ、語り合うインターネット放送番組づくりを市民団体と展開。
- 米粉PROJECT
行政や企業と一緒に米粉を使った商品開発や食の体験メニューづくりを塩尻市や大町市で実施。
- 古い電車で新しい語らいの会
地域住民、松本電鉄職員と一緒に古い電車で縁側カフェを実施。
- 新村音楽祭
学生が実行委員として加わり、地域の方と一緒に地域音楽祭を企画・運営。
- 松本かえるまつり
商店主や信州大学生と一緒に通商商店街の祭りを企画・運営し、賑わいを創出。
- お店で楽しい縁側づくり
大学近くにある昭和の面影を残すお店で店主・地域住民・学生と一緒に縁側ひろばを創出。
- 33(ミミ)がわり
学生・親の会・NPO法人と協働でパソコンで要約筆記を行い難聴児童などを支援。
- 木曾漆器による賑わい創出
学生の新しい視点で地域の魅力を発見し、地域づくりを進める。
- 信州あづみの光城山
地元の方の話や散策を通じて、里山の魅力を冊子やマップにまとめ地域の方と共に紹介。

他

地域づくり考房『ゆめ』の自主事業

地域の連携・協働を実現する人材を育てる

地域づくりコーディネーター養成講座

地域や社会の中にあるさまざまな問題を解決するためには、人々が分野・組織・機関を超えてつながり、協働することが必要です。そこで考房『ゆめ』では、地域の資源(ヒト・モノ・コト・カネ)を掘り起こし、つなぐ役割を担う人材「地域づくりコーディネーター」の養成・認定に取り組んでいます。講座は学生のみならず広く一般にも開放。講義や演習、コーディネートの実践、プレゼンテーションなどのプログラムを約1年かけて受講し、地域づくりコーディネーターに必要な知識や素養を学びます。



若者と地域住民が交流する場を創出

地域フォーラムの開催

さまざまな分野で地域活動を進めている若者と地域の方々との出会い・語らいの場を創出し、世代を超えた相互理解を図ることを目的に、「地域フォーラム」を開催しています。2014年3月には本学に県内外から学生50人、大学関係者7人、NPO・自治体関係者や企業・行政職員等73人の、10代～80代までの世代が合わせて130人集結。本学学生がファシリテーターとなり、さまざまなテーマについて語り合う「ワールド・カフェ」、「地域活動講演会」、「名刺交換・交流会」を行い、持続可能な地域づくりのきっかけとなりました。



その他の活動

- 松本大学地域づくり学生チャレンジ奨励制度
- とも学び講座
- 地域づくりセミナー・フォーラム
- 他

地域健康支援ステーション

栄養と運動の両面から 地域の健康づくりを支援します

企業・団体からの依頼を受けて 指導と学びを実践

地域健康支援ステーションでは、現場で力を発揮できる管理栄養士・健康運動指導士を育成するために、地域の中での学びを実践する場を創出しています。地域の公共機関・企業・団体からの依頼を受け、健康栄養学科の学生が管理栄養士スタッフとメニュー開発や栄養指導に取り組んだり、スポーツ健康学科の学生が健康運動指導士スタッフと運動指導や体力測定などを展開。地域の健康づくりに貢献するとともに、学生の実地に学ぶ教育の場として活用し専門職としての実践力を養っています。



指導事業

個別指導・集団指導・講演・セミナー・スポーツ栄養サポートなどを行います。

啓発事業

指導用の資料作成・教材の開発・メニュー考案・栄養表示などを行い、栄養教育を実践します。

広報事業

管理栄養士や健康運動指導士の存在や役割の広報を目指します。

卒業生フォローアップ事業

卒業した学生を中心に、最新の知識の習得やキャリアアップをフォローします。

食育・栄養指導を実施

「食育SATシステム」で地域特性に合わせたアドバイス

地域の方への食生活支援活動として「食育SATシステム」を用いた食事診断を展開しています。

実物大の料理のフードモデルから、自身の普段の食事に近いものを選んでトレに並べ、センサーボックスの上に載せると、総エネルギー、脂質、たんぱく質、ビタミンなどの栄養素が瞬時に計算されて栄養バランスの判定結果が表示されます。選んだ料理の組み合わせから、不足もしくは過剰な栄養素などが表示されるので、その場でよりバランスの取れた組み合わせになるような確かなアドバイスを行うことができます。

諏訪地域、木曽地域での「食育フォーラム」のイベント会場では、専任の管理栄養士スタッフと健康栄養学科の2・3年生が「食育SATシステム体験」コーナーを受け持ちました。来場していた多くの方に体験していただき、パソコン画面に表示される栄養素などの摂取状況を確認しながら一人ひとりに丁寧なアドバイスを行いました。

栄養指導は、その地域の特性や食生活、個人のライフスタイルを考慮して行う必要性があり、学生たちにとっては管理栄養士という仕事の奥深さや知識の重要性を体験する機会となっています。



運動実践を通した健康づくり

ゼミや実習とは異なる環境で自分の学びを活かす

塩尻市や朝日村の公民館、松本市の高齢者福祉施設などで専任の健康運動指導士スタッフとスポーツ健康学科の学生たちが運動実践や、レクリエーションを通した地域の健康づくりを行っています。定期的に開催される運動教室は、飽きずに継続できることを重点に置き、また施設ではレクリエーションを楽しむ中で、無理なく軽いトレーニングができるように提案。毎週開催している塩尻市の公民館での運動教室は、一人暮らしの方、一日を通してあまり会話のない方、体力に不安のある方などが健康増進を目的に、いつでも参加できるのが特徴です。そのため参加者の年齢構成は一定でなく、個人の体力にも差があるため、参加する学生は臨機応変な工夫を求められ、多くの体験を重ねることができます。

学生はこうした運動指導の現場とゼミナールや実習の相互の学びを活かしながら、地域貢献と自らの成長のための学習に取り組んでいます。



J1・松本山雅FCのスタジアム弁当を提案

商品化に向け試行錯誤重ねる

サッカーJ1リーグに参戦する松本山雅FC。松本大学は平成22年度から連携協定を結び、以来健康栄養学科の学生がホームスタジアム・アルウィンで販売するスタジアム弁当のメニューの開発・提案を行っています。

スタジアム弁当の開発は、まず出展業者によるオリエンテーションからスタートし、その後学生たちはスタジアム弁当の販売状況や観客のニーズを把握するため、ホームゲーム日のスタジアムを視察します。視察で得たことを活かしながら自分たちで考えたアイデアを提案。それを採用してくださった出展業者と何度も打合せを重ね、試行錯誤しながらメニューの商品化につなげます。そして、「スタめし」完成発表会では松本山雅FCの運営会社、出展業者、選手はか関係者の方々に、商品のコンセプトやアピールポイントなどをプレゼンテーションします。販売日初日にはアルウィンの店頭で販売補助を行い、自分たちが考案した商品を実際にお客様に買っていただける喜びを感じることができます。

